

外国に関りのある子どもと日本人の子どもの言語の壁は、 どのような壁があり、どう乗り越えているのか

5211030 門田

5221011 稲垣

5221043 阪上



リサーチクエスト：日本語が上手く活用できない子に周りの子どもたちや教師はどのように支援しているのか。

仮説：日本語を上手く活用できない子に対し、周りの子どもたちや教師などがサポートし、クラスになじめるような支援をしていると考える。

先行研究で明らかになっていること

- ・外国に関りがある人はまず、日常生活に必要な日本語から習得していく。
- ・保護者が困っていることは、主に保護者会での活動、懇談会、学校での子ども同士のトラブル発生時となっている。
- ・グローバル化していくにつれて、日本語指導が必要な児童は増加傾向にある。

明らかになっていないこと

- ・日本語を習得しきれておらず、会話が難しい子どもは、どのようにコミュニケーションをとっているのか。
- ・日本人同様に話せる子どもは、学習においてどのような課題があり、どのような支援学習が行われているのか。
- ・異なる文化がどのようにして共存しているのか。

2024年2月13日～16日：A小学校、C小学校 2月19日～22日：B小学校

小学校でのフィールドワークまとめ

A小学校

- ・会話はできるが、文章を書く際、形容詞など上手くつかえていなかった。



取り出し授業で1対1で添削や担任の教師が付きっきりで指導していた。

B小学校

- ・児童のペアワークを増やして、外国に関わりがある児童との情報共有を多く取り入れていた。



授業中に外国にかかわりのある子どもと日本人の子どもが関わりやすい環境づくりをしていた。

C小学校

- ・国語の授業で物語の要約をする活動の際、日本語があまり読み書きできない子がいて困っていた。



日本語教室の先生がその子が書きたい内容を聞いて日本語で書き、それを写していた。

事前学習の取り組み

- ・フィールドワークを行うにあたっての先行研究
- ・ニューカマーなどについての論文要約
- ・フィールドワークを行うにあたってのグループワーク

フィールドワークでの経験

- ・実際に外国に関りのある子どもとコミュニケーションをとることができた。
- ・外国に関わりのある子どもに対しての教師のサポートや支援方法を見て学ぶことができた。
- ・子ども同士のコミュニケーションの取り方を見ることができた。

フィールドワークでの失敗

- ・日本語を話せない子どもが少なかった。
- ・インタビューがあまりできなかった。
- ・自分自身がサポートについたため、教師のサポートをあまり見ることができなかった。

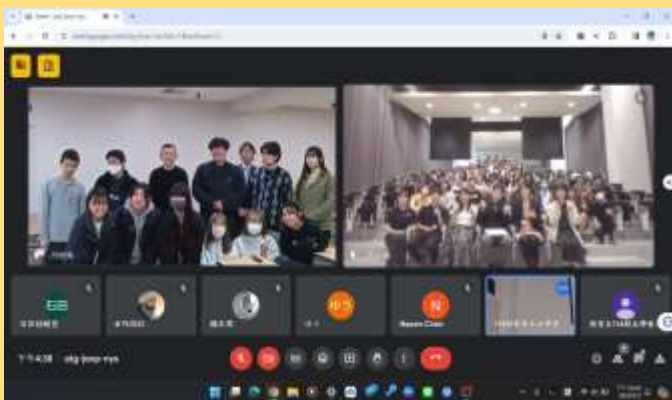
今後どのように活かすか

教師になった際に、外国に関りのある子どもがいるクラスの担任をする際に、今回学んだ支援方法を実践したいと考える。

ボランティア活動やサポート活動の際に、外国に関わりのある子がいたら、今回のフィールドワークで周りの子どもや日本語教室の先生がしていたサポート方法を実践したいと考える。

交流会

- ・お互いの国の文化を発表した。
→今まで知らなかった台湾の文化を知ることができ、良い異文化交流ができた。
- ・オンラインゲームで発表した内容を基にクイズゲームをした。
→発表した内容を基にしたクイズゲームをすることで、知識として身につけることができた。
- ・異なる言語で伝えることの難しさを経験することができた。



全ての活動を通してのまとめ

フィールドワークでは、外国に関わりのある子どもが言語や文化の壁を乗り越えている様子やそのサポート体制を見ることができ、交流会では、自分たちが異なる言語で伝えることの難しさや異文化理解を深めることができた。

この活動を通して、異文化理解の重要性を改めて実感することができた。

参考文献

文化庁「日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査」2001、(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihong_okyoku_jittai/zaiju_gaikokujin.html) (閲覧日：2024年2月3日)

杉本 香、樋口 尊子「外国人保護者が社会参加するための日本語教育支援を考えるー外国人保護者へのアンケート調査の結果からー」2020年

文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題」2021 (https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kyokoku-000015284_03.pdf)、(2024年2月3日)